

ライフケアガーデン熱川(本館)

症 例 概 要 入居者氏名：S・E様（女性・70代） 要介護3

病名：認知症、躁鬱病、甲状腺機能低下症、肺炎

内 容

S・E様は、高血圧、甲状腺の病気で東部総合病院に通院していましたが、短期記憶障害が顕著になり、精神的に不安定になる事も多くなったため独居での生活が困難な状況になってきました。また最近、認知力の低下も著しく、東伊豆町地域包括センターが関わり、任意後見契約を結んだ長田司法書士よりライフ熱川への入居の相談がありました。

平成30年7月に別館へ入居。S・E様は非常に帰宅願望が強く、レクリエーションへ参加、傾聴等をしている時以外は常に別館から出て行こうとします。顔認証システムも万全ではありません。そこで、人員配置及び建物の構造上の理由（出入口には事務所があり最後の砦として事務職員が対応して離棟防止ができる）などから本館へ移動してはとの意見があり試みました。早速本館では、介護課長・チーフが中心となり「S・E様離島防止プロジェクト」チームが結成されました。

まず、「いらいらして怒らない」。なかなか難しいことですが、「怒ってしまう」は、いい事は一つなく全くの逆効果であるため丁寧に対応することです。次に「理由を聞いてあげる」とにかく傾聴です。なぜ、自分の家に帰りたいのかを聞いて共感します。共感する事に寄って少しでも不安が解消されればと思います。S・E様の場合、「息子が家で待っているので帰って夕飯を作る必要がある」との事です。息子さんは亡くなっておりその事が原因で鬱病のきっかけにもなっているためより丁寧に傾聴しています。そして今一番力を入れているのは「他の事に気をそらす」です。①パンフレット作成を手伝ってもらっています。事務所に来ることが多い為、その都度何か手伝ってもらっています。②レクリエーションへの参加を促す。ピアノ鑑賞、いきいき体操、はり絵&ぬり絵、外出レクリエーション、特に最近はカラオケがブームの様です。最初は恥ずかしがって歌わず、他の人に人の歌を聞いているだけでしたが、1度歌ってからは歌うことに目覚めた様です。

③仲良しのF・U様を励ます。先月AOHより退院してライフに戻って来たF・U様の居室まで行って励ましています。S・E様、非常に饒舌になり絶好調です。F・U様もおとなしく聞いており、表情はあまりありませんがきっと喜んでいるはずです。

別館に居た時よりも、確実に帰宅願望は減ってきております。また以前に比べ、事務所へ来た時に笑っている回数が増えライフでの生活を楽しくしているように見えます。帰宅願望はなくなっておりませんが、お手伝いやレクリエーションをしている様、他の入居者様と楽しそうにしている様は、本当に輝いていると思います。